

人生ハンド仏句

第90号
H. 21. 9. 1
(毎月1日発行)

はきいどのごしよ
「波木井殿御書」

日蓮聖人御遺文

住職 谷川寛俊

「日蓮は日本第一の法華經の行者也。日蓮が弟子檀那等(でしだんなど)の中に日蓮より後(のち)に來(き)たり給(たま)ひ候(そうら)はば、梵天(ぼんでん)・帝釈(たいしやく)・四大天王(よんたいてう)・閻魔法皇(えんまほうおう)の御前(ごぜん)にても日本第一の法華經の行者日蓮房が弟子檀那成りと名乗りて通し給うべし。此の法華經は三途の川にては船となり、死出(ししゅ)の山にては大白牛車(だいびやくしゃ)となり、冥途(めいど)にては燈(とも)しびとなり靈山(りょうぜん)へ參る橋なり。靈山へましまして良(よし)の廊(わたり)にて尋ねさせ給え。必ず待ち奉るべく候」という一節があります。

この御書は身延の領主であり、お山を全て提供された方へ出されたお手紙で大変有名な一節です。

お葬式の引導分によく拝読され、死後靈山往詣(しごりょうぜんおうけい)日蓮大聖人のおひざ元に行つた時)された時の安心をお示しになられたものであります。私たちはやがて亡くなつた後、直ぐに閻魔法皇(えんまほうおう)の前に引き出された時、「私は日本第一の法華經の行者日蓮聖人の弟子である、お檀家であると名乗つて通つて来て下さい。この法華經は三途の川では船となり、死の山にては大白牛車(だいびやくしゃ)であり、冥途にては燈となり、靈山(りょうぜん)へ行く橋である。靈山に着いたならば良(よし)の廊(わたり)で、私をたずねて下さい。この日蓮は必ず待つて居りますよ。だから安心して靈山往詣をして下さい。」しかしこの御遺文のあとに大切な一節があります。

「但し各々の信心に依るべく候、信心だも弱くば何(いか)に日蓮が弟子檀那と名乗らせ給つとも御用(おんもち)ひは候(そうら)わじ」とこの一節が続きます。「靈山の良の廊で待つています

から、安心してお出で下さい」と言われた後に「但し各々の信心による。信心が弱いならこの日蓮の弟子だとかお檀家だとか言つてくれるな」といふ意図となり、「靈山往詣するには少々厳しいものになります。無条件で安心して靈山往詣出来ると思つていたことが、厳しい条件がついていた。信心だも弱くば御用ひは候はじ」と言う条件が付いていたのです。

しかし何も不安になることはありません。信心を強くすればいいのです。しっかり仏道修行をし、唱題修行をし、「信心強盛(こうじょう)であれば、私は日蓮聖人の弟子、お檀家です」と名乗つて来て下さい。そして事故なく靈山に行き、大聖人を尋ねさせ給へ。そこで大聖人から詳しくお話を聞くことが出来るのであります。どんなお話であるうか。おそらく、それは「あなた、よく信心をされましたね。良く唱題修行をされましたね」というお褒(ほ)めのお言葉をいただけるようにしたいものであります。

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

今この一瞬を精一杯生き抜く